

平成29年度事業報告書

平成29年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター



目次

センター長挨拶	1
I 補助事業採択までの取組	3
1. ダイバーシティ研究環境整備	4
(1) OG人財バンクを活用した研究支援員制度	4
2. 意識啓発	5
(1) 平成29年度トップセミナー「理工系大学におけるグローバル人材育成」	5
(2) 男女共同参画・ダイバーシティ関連図書の貸出	5
3. 裾野拡大	6
(1) トヨタ女性技術者育成基金説明会	6
(2) 平成29年度愛知県女性の活躍理系女子応援事業への協力	6
4. 産学連携	7
(1) ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾	7
II 名古屋工業大学のダイバーシティ推進	9
1. 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言	10
2. ダイバーシティ推進センターの開設	11
3. 多様性人材育成プログラムNITech CANの構築	12
4. 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組	14
III 平成29年度事業実施報告	17
1. キックオフシンポジウムの開催	18
2. 研究者支援	20
(1) 女性が拓く工学の未来賞	20
(2) 女性研究者メンター制度	21
(3) 研究支援員制度	21
(4) ライフイベント支援	22
(5) 女性研究者・技術者の会活動	25
(6) 研究促進インセンティブの付与	26
(7) NITech CAN 女性研究者データベースの構築	28

3. 次世代育成	29
(1) NITech CAN「産業論」・工学女子キャリア形成塾の新設	29
(2) NITech CAN「産業論」・工学女子キャリア形成塾プレ講座の実施	29
(3) 女性同窓会「鶴桜会」	32
(4) 女子学生団体彩綾～SAYA～	32
4. 意識啓発と情報発信	33
(1) あいち女性輝きカンパニー認証企業による女性活躍のための交流会	33
(2) 朝日女性活躍フォーラム2017	33
(3) 文部科学省科学技術人材育成フォーラム	34
(4) ダイバーシティ推進センター刊行物	35



20世紀は、工学の発展とその知見に基づく高度なものづくりによって、便利で快適な都市生活を実現させた時代でした。しかし、その後半から21世紀を迎える頃には、人間の旺盛な活動がもたらした自然環境の変化や伝統文化の衰退など多くの課題も明らかとなりました。それとともに、人々の求める理想的な暮らしの姿も大きく様変わりし、多種多様な質的価値がますます重要視されるようになっていきます。また工学にも、多様な価値観に自在に応えうる、柔軟で感性溢れる発想がますます強く求められるようになっていきます。

こうした認識が広まる一方で、工学系は依然として女性研究者の割合が全ての研究分野の中で最も少なく、その増加のスピードも大きく遅れをとっているのが現状です。工学に新しい領野を切り拓く可能性を持つ女性研究者を増加させ、その活躍を支援して研究力を向上させる環境整備や意識変革が急務です。

今から4年前の平成26年、名古屋工業大学は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択され、「男女共同参画推進センター」を発足させて女性研究者支援に着手しました。平成29年3月末までの3年間の事業では、さまざまな女性研究者支援の仕組みを立ち上げ、それらを軌道に乗せることができました。事業終了後の同年4月からは、女性研究者支援を継続・発展させるため、新たな事業構想を練り始めました。3年間の第1期事業の成果を踏まえてそれをさらに深化させる事業提案が認められ、同年秋に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」（H29-H34）の採択が決定しました。これに伴い、「男女共同参画推進センター」は、「ダイバーシティ推進センター」へと再編し、従来の仕組みを強化するとともに、新たな取り組みも多数開始しました。2期連続での事業採択は、工学系単科大学としての本学の女性研究者支援に大きな期待が寄せられている証と受け止め、現在は、6年間の新事業の遂行に邁進しています。

以上のような状況の中、年度途中から開始した「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の取り組みを含む、平成29年度全体の報告として『平成29年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）事業報告書』を作成いたしました。ご高覧いただき、本事業に対するご理解を深めて頂くとともに、忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

平成30年6月

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター長 藤岡伸子

事業報告

I 補助事業採択までの取組

1. ダイバーシティ研究環境整備
2. 意識啓発
3. 裾野拡大
4. 産学連携

I 補助事業採択までの取組

1. ダイバーシティ研究環境整備

(1) OG人財を活用した研究支援員制度

OG人財バンクは、専門的なスキルを持ちながらもライフイベント等の理由で第一線から退いている女性卒業生を対象に、スキルアップやキャリア復帰に役立つ機会の提供を行うことを目的として、平成26年度に発足しました。発足当初から、本センターの研究支援員制度と連携し、登録者を研究支援員に起用しています。研究者に対しては、高度なスキルを持つ支援員を紹介することができ、OGに対しては、本学で培った専門知識を活かした再チャレンジのきっかけを提供しています。

現在では、社会の第一線で活躍する女性卒業生も含めたすべての本学OGを登録対象としており、学内外からの様々な要望に応えられる工学系女性人材の情報バンクに成長

しています。研究支援員としての起用だけでなく、実務型教員としての起用、理系女子支援イベントでの講演依頼など活用の幅も広がっています。



結婚・出産・育児等で社会の第一線から退いている本学OGを名古屋工業大学の研究者を支援する研究支援員として起用

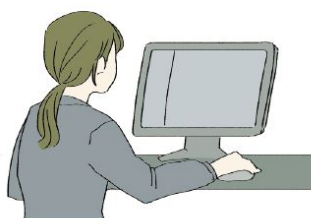


OG人財バンクの多様な活用

ニューズレター等での情報提供



企業からの求人情報の配信



セミナー等の情報共有



シンポジウムでの講演依頼



学内からの求人への照会



ロールモデルとして学内外へ紹介



2. 意識啓発

(1) 平成29年度トップセミナー「理工系大学におけるグローバル人材育成」

名古屋工業大学では、平成26年度より男女共同参画推進センター（現・ダイバーシティ推進センター）の主催で、学長を始めとする役員、教育類長、事務局管理職員を対象とする意識啓発セミナーを毎年開催しています。

平成29年度は、人材育成において先進的な取組を行う芝浦工業大学の村上雅人学長にご講演いただきました。少子化を背景に将来的には学力レベルの維持が困難になるという危機意識から、教育の質的保証と多様な人材育成の重要性を具体例を挙げながらお話され、参加者は熱心に聞き入っていました。



日 時：平成29年6月6日（火）15:00-16:30
会 場：名古屋工業大学4号館第3会議室
講 演：芝浦工業大学長 村上 雅人氏
「理工系大学におけるグローバル人材育成～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～」
参加人数：約40名

(2) 男女共同参画・ダイバーシティ関連図書の貸し出し



i-cafe 図書コーナー

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeでは、ジェンダー・ダイバーシティ・ワークライフバランスに関連する図書の閲覧・貸し出しをしています。図書は、独立行政法人国立女性会館の図書パッケージを利用しており、3か月ごとに入れ替わります。

- ◇場所
11号館3階 311室 交流サロンi-cafe
- ◇開室時間
平日9時-17時
- ◇蔵書
センター蔵書
国立女性教育会館貸出サービスの図書
- ◇貸出対象者
本学学生、教職員
- ◇手続き
センター事務室11号館2階211室で
職員・学生証提示の上お手続きください。



男女共同参画週間の
図書展示

平成29年6月23日-29日の内閣府による男女共同参画週間には、附属図書館の一角に「男女共同参画週間」コーナーを設けて、学生及び教職員を対象に関係書籍の閲覧および貸し出しを案内しました。

I 補助事業採択までの取組

3. 裾野拡大

(1) トヨタ女性技術者育成基金説明会

トヨタグループが平成27年度から実施するトヨタ女性技術者育成基金奨学給付制度について、平成29年4月26日に個別相談会を実施しました。将来製造業のエンジニアを目指す工学系学部的女子新入生を対象とする本制度は、奨学金とステップアップの両面で理系の女子学生をバックアップするものです。キャリアサポートオフィス長の山下啓司先生が、就学支援プログラム及び奨学給付金について現状を踏まえて説明された後、すでに奨学生である本学的女子学生5名によって、育成プログラムの内容の紹介がありました。会の後半では、申請書の書き方についての個別相談会を行いました。

(2) 愛知県 平成29年度理系女子応援事業への協力

愛知県が主催する女子中高生の理系進路選択支援事業「いいかも！リケイ」に協力し、企業と連携した研究室公開、女子学生団体彩綾～SAYA～による学校生活案内を行いました。この事業は、愛知県の主要産業である製造業や、大学、研究機関の理系分野で活躍する女性を増やすことを目的に開催されています。

平成29年8月24日に日本特殊陶業株式会社と連携し、「私の選んだ道。自ら切り拓くミライ」を実施しました。午前中は女子中高生が本学の取材をし、キャリアサポートオフィス長山下啓司先生には女性のキャリア選択について、女子学生団体「彩綾～SAYA～」には、工学系の大学での女子学生の日常について詳しくお話を聞きました。その後は、日本特殊陶業株式会社に会場を移し、製品体験と女性技術者の取材をしました。

また、8月28日には、株式会社メニコンと連携して「コンタクトレンズに見るナノ世界」を実施し、山本勝宏准教授（大学院工学研究科 物質工学専攻 生命・物質工学科）の研究室見学を行いました。本学の卒業生で、現在、株式会社メニコンで商品開発に携わりながら本学の特任准教授を務める伊藤恵利先生がミニ講義をし、大学時代から現在の職業に至るまでの道のりをお話しました。



平成29年11月4日には、大学・企業見学に参加した女子中高生の成果発表会「女子のための理系きっかけフェスタ」が開催されました。パネルディスカッションに、本学から伊藤恵利特任准教授・女子学生団体彩綾～SAYA～の亀岡真祐子さんが登壇し、理系進路の魅力、理系職種の多様さについて熱弁をふるいました。



女子学生団体 彩綾～SAYA～による
大学生生活の紹介

4. 産学連携

(1) ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾

愛知県の主要産業である製造業においては、就業者数に占める女性の割合が全国平均を下回り、特に生産職場の職長の女性比率にいたっては、5%前後という著しく低い割合に留まっているため、女性の長期的な就労と専門性を生かしたキャリア形成を可能にする支援の基盤構築が急務となっています。

この課題の克服に向けて、名古屋工業大学男女共同参画センター（現・ダイバーシティ推進センター）は、平成26年度より、イーブルなごや（名古屋市男女平等参画推進センター）指定管理者アイ・コニックグループの運営協力を得て、「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」を主催しています。

この養成塾は、女性技術者と組織との双方向からの意識改革の促進を目指すものであり、これまでに、企業35社から52名の女性技術者が受講しました。女性技術者が主体的に計画してキャリアアップする意識を持つこと、経営工学および心理学の理論に裏付けられた品質管理術、組織運営術を学び、現場での問題解決のための技能を習得することを主軸とする内容構成は、毎年好評を博しており、受講者が職場に持ち帰る養成塾の成果が高く評価されています。

なお、本養成塾の取組が評価され、日本工学教育協会第22回工学教育賞の受賞が決定しました。

実施日	主な内容と講師（敬称略）
第1回 平成29年7月11日（火） 14:00-17:00	◇入塾式 ◇特別講演会 1「製造業における女性活躍の具体的推進方法」 一般社団法人中部産業連盟 参事 杉藤 里美 2「イクボスで、女性の活躍と笑顔が共にアップ～女性が活躍できる職場と上司～」 NPO法人ファザーリング・ジャパン理事 川島 高之
第2回 平成29年7月25日（火） 10:00-17:00	◇キャリアデザイン講座1 「自己分析①～未来の私をイメージする～」 2級キャリアコンサルタント 市川 麻波
第3回 平成29年8月8日（火） 10:00-17:00	◇キャリアデザイン講座2 「自己分析②～私らしく働き続けるためには～」 2級キャリアコンサルタント 市川 麻波
第4回 平成29年8月22日（火） 10:00-17:00	◇リーダー養成講座1 「品質」をテーマにものづくりのマネジメントを考える 名古屋工業大学大学院教授 仁科 健
第5回 平成29年9月5日（火） 10:00-17:00	◇リーダー養成講座2 「ボカミス」をテーマにものづくりの安全を考える 名古屋工業大学大学院准教授 神田 幸治
第6回 平成29年9月19日（火） 10:00-17:00	◇リーダー養成講座3 「心理」から現場のモチベーションアップを考える 名古屋工業大学大学院教授 鷲見 克典
第7回 平成29年10月3日（火） 10:00-17:00	◇キャリアデザイン講座3 「キャリアプラン～リーダーとしての今日からの行動計画～」 2級キャリアコンサルタント 市川 麻波
第8回 平成29年10月17日（火） 14:00-17:00	◇卒塾式 ◇リーダーとなるための行動宣言 ◇特別講演会 1「私は伝道師～マザー機能に生き残りの道を見出すまで～」 住友電装株式会社 西部事業本部第1事業部生産技術部製造課 谷 尚子 2「女性活躍に向けた中小企業における取組～採用と活かし方～」 エイベックス株式会社 代表取締役会長 加藤 明彦



Ⅱ 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1. 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言
2. ダイバーシティ推進センターの開設
3. 多様性人材育成プログラムNITech CANの構築
4. 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組

Ⅱ 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1. 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

ダイバーシティ推進センターは、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分に発揮し活躍できる環境の整備を最優先課題としており、その実現のための意識変革に積極的に取り組んでいます。

昨年11月に「名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言」を公開し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて全学体制で臨んでいます。この宣言は、平成26年度に制定した「男女共同参画推進宣言」に「ダイバーシティ・アンド・インクルージョン」の視点を取り入れ「オープンイノベーション」へとつなげることを意図するものです。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

平成29年11月22日

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」をめざしています。社会のあらゆる分野でダイバーシティの価値が認識され、その推進と活用が求められている現在、本学は、目標達成を確実にするための最優先課題として、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分に発揮し活躍できる環境の整備とそれを実現するための意識変革を掲げます。

本学は、多くの優れた女子学生を育成し価値ある技術者として産業界へ輩出すること、そして多くの女性研究者を工学コミュニティの自立した一員として招き入れその活動を弛まず支援することを工学におけるダイバーシティ推進の基盤と位置付けます。その基盤の上に、本学は長年培ってきた産業界との連携を含めた戦略的なダイバーシティマネジメントを通じて、多様な人材活用〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現をめざします。

本学における〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉とは、人種、性別、年齢などの違いだけではなく、宗教、母語、文化・社会的背景などの内面的な差異をも含めた、多様な違いを受け入れて活かすことにより、組織全体の強靱さを高め、さらにはイノベーション創出に繋げることをめざすものです。

これらの理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学はダイバーシティに基づくオープンイノベーションの実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします

基本方針

1. ダイバーシティ推進の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
2. ダイバーシティ推進とその活用の観点から、全構成員の労働環境の整備を行う
3. 〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現に向けた意識変革に努める

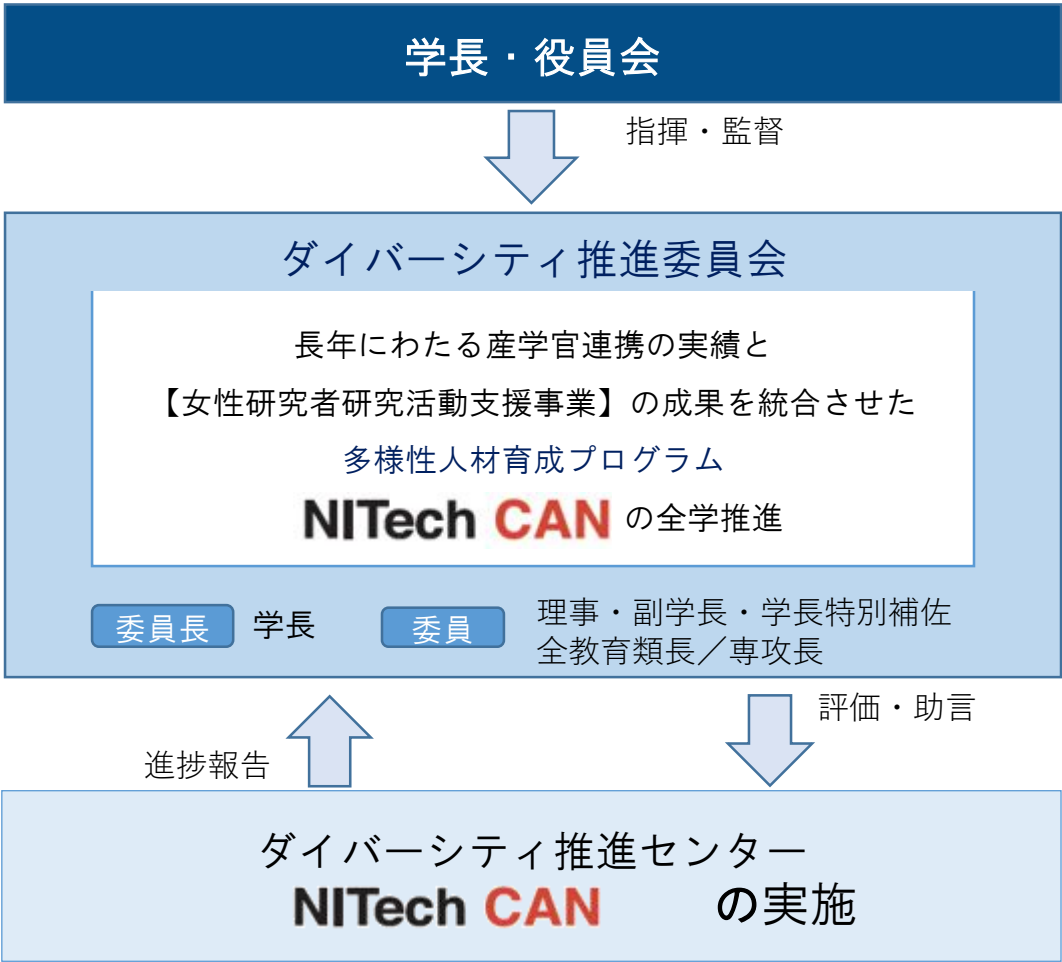
2. ダイバーシティ推進センターの開設



名古屋工業大学男女共同参画推進センターは、平成26-28年度文部科学省人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の成果が評価され、平成29年度より「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に連続して採択されました。

これを受けて、新たなダイバーシティ推進事業をスタートさせるため、男女共同参画推進センターを発展的に解消

し、平成29年10月1日にダイバーシティ推進センターを開設しました。ダイバーシティ推進センターは、従来の女性研究者支援の取組をさらに深化・拡大する「多様性人材育成プログラムNITech CAN」を構築し、研究者支援と次世代育成を主軸とする取組を幅広く継続的に実施していきます。



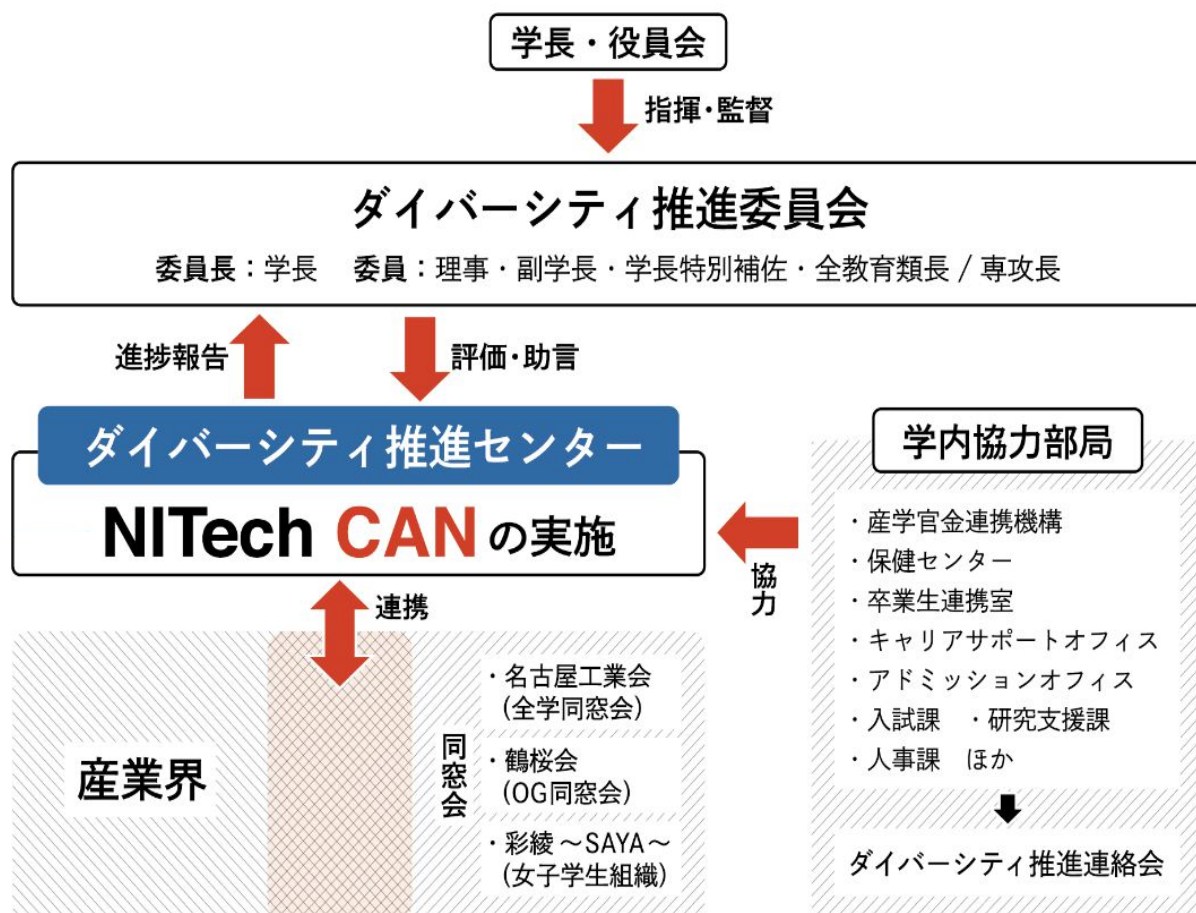
Ⅱ 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

3. 多様性人材育成プログラムNITech CANの構築

本学は、多様性人材育成プログラムNITech CANの実施を全学的に支援するため、男女共同参画推進委員会を再編し、学長を委員長とする「ダイバーシティ推進委員会」を設置しました。

本事業の内容に関わるすべての理事、副学長、学長特別補佐、全教育類長・専攻長を委員に含める委員会が、ダイバーシティ推進センターの取組内容について評価と助言を行っています。ダイバーシティ推進委員会の発足により、全学横断的な組織が多様性人材育成プログラムNITech CANに恒常的に関わり、効果的な実施を図っていく体制を整えることができました。

さらに、産学連携の豊富な実績を活かし、学内のみならず、地域の優良企業と連携し、女性研究者および技術者のネットワーク形成に積極的に取り組んでいます。NITech CANの実施においては、長年連携を積み重ねて来た地域の産業界、行政など一層の連携を図るほか、産業界で活躍するOB・OGの同窓会はもとより、現役女子学生の全学的組織「彩綾～SAYA～」とも連携しています。



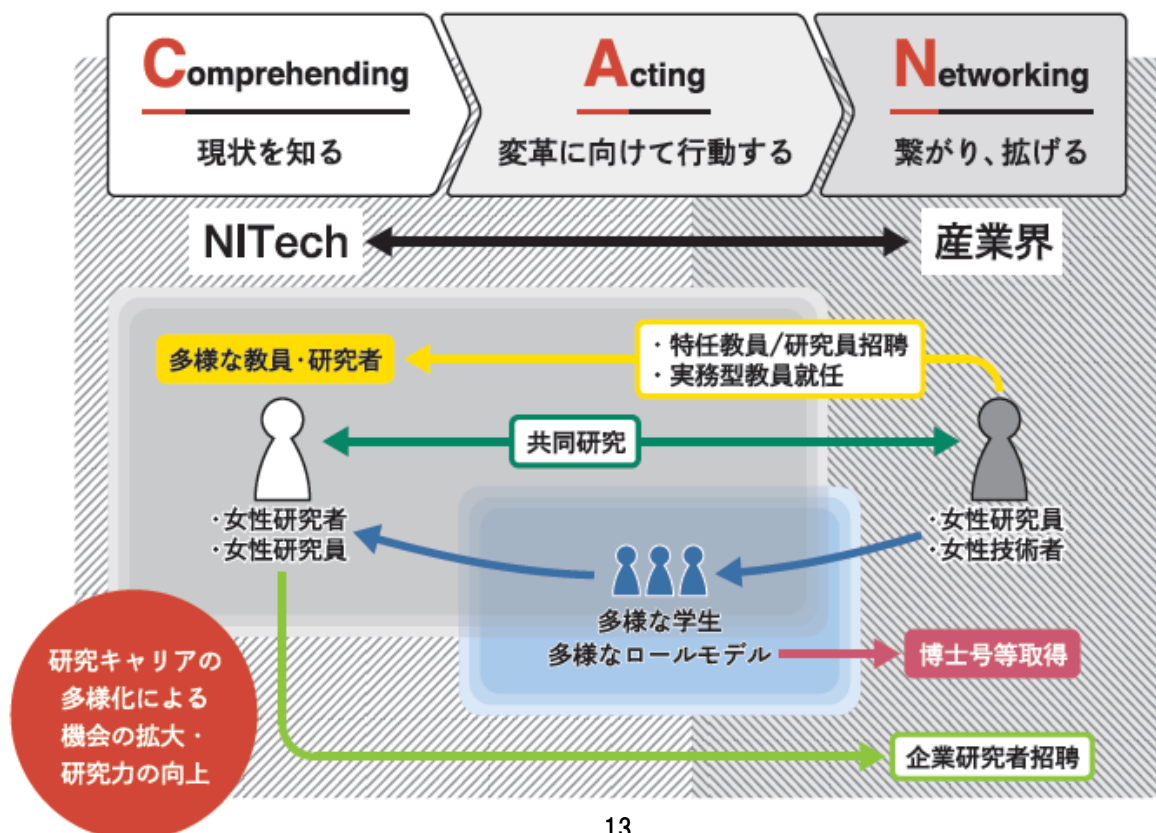
多様性人材育成プログラムNITech CAN とは、本学が長年培ってきた産学官連携の実績と、終了したばかりの「女性研究者研究活動支援事業」の成果を統合し、工学分野のダイバーシティを高めるために必要な、「知る＝Comprehending、行動する＝Acting、繋がり、広げる＝Networking」の3つのミッションを産・学が一体となって遂行するしくみです。

大学と産業界が一体となり、学生から研究員、研究者、研究リーダーまでの全てのステージの女性工学人材に対して、協力して育成と支援を行うことで、女性工学人材の流動性・機動性を高め、女性研究者の増加につなげることを目指します。企業には、さまざまなレベルで研究・開発に携わる女性が存在します。こうした高いポテンシャルを持った工学系の女性たちが、本学との共同研究を行った後、博士課程に社会人として入学し、学位を取得し、研究能力を高めて研究業績を積むことで、学部→大学院進学→研究者という従来のルートとは別の女性研究者育成の道を拓くことができます。

工学を志す女性にとって、研究キャリアへの多様な道を拓くことは、活躍の場や方法において多様な選択肢と可能性が広がることにつながります。多様な未来を思い描ける分野は、次世代を担う女子中高生にとっても、魅力的な進路となり得ます。私たちは、「知る・行動する・繋がり、広げる」の3つの指針を産業界と共有し、一体となってそれを遂行し、ダイバーシティ研究環境を地域産業界とともに構築していきます。

NITech CAN の仕組み

産・学で問題を共有し、3ステップで女性研究リーダーを育成



Ⅱ 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

4. 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組

次世代育成

step 1. **C**omprehending

step 2. **A**cting

step 3. **N**etworking

研究者支援

イノベーション創出の鍵となるダイバーシティ豊かな人材育成を目指し【次世代育成】と【研究者支援】を2つの重要ミッションとして掲げます。地域産業界・同窓会との協働を通じ、これらを**C・A・N**の3つのステップで着実に遂行します

Comprehending 現状を知る

工学女子キャリア形成塾

- ・研究キャリアへの誘導

全学必修科目の「産業論」整備

- ・全学に向けたダイバーシティ教育

女性研究リーダー養成塾

- ・共同研究・競争的資金獲得支援

メンター制度の拡充

- ・メンター研修の実施

Acting 変革に向けて行動する

中高生の理系選択支援

- ・企業・自治体との連携

スタートアップ研究費付与

- ・大学院生への研究動機付け

特任研究員等の常勤教員登用

- ・ポジティブアクション

研究促進インセンティブ付与

- ・大型科研費、共同研究奨励

リスタート研究費の付与

- ・キャリア中断研究者への復帰支援

ライフイベント支援の拡大

- ・研究員等に支援範囲を拡大

Networking 繋がり、広げる

OG人材バンクの拡充

- ・企業研究者、技術者、院生も参加

大学間連携会議の実施

- ・所属、職位、世代を超えた情報交換会

NITech CAN データベース構築

- ・共同研究に向けた女性研究者情報の集約と公開

女性研究者・技術者の会活動

- ・連携企業研究者・技術者とも連携

プロジェクト特任女性教員の増員

- ・連携企業から招聘

C Comprehending 現状を知る



工学女子キャリア形成塾
 「女子学生のための企業見学会」



女性研究者メンター制度「メンター研修」

A Acting 変革に向けて行動する



自治体・企業との連携による
 女子中高生理系進学応援事業



女性研究者の研究促進・奨励
 「女性が拓く工学の未来賞」

N Networking 繋がり、広げる



女子学生団体彩綾～SAYA～主催
 企業の女性技術者との交流会



NITech CAN 女性研究者データベースの構築

事業報告

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

1. キックオフシンポジウムの開催
2. 研究者支援
3. 次世代育成
4. 意識啓発と情報発信

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

1. キックオフシンポジウムの開催

文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）の採択を受け、平成29年11月22日にキックオフシンポジウムを開催しました。



キックオフシンポジウム

「ダイバーシティ＆インクルージョンによる産学の活力創出をめざして」

日 時：平成29年11月22日（水）15:00-17:00
場 所：名古屋工業大学 NITech ホール
対 象：教職員・学生および一般
参加者：約150名

<プログラム>

総合司会：名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター長 藤岡 伸子
15:00-15:10 開会挨拶：名古屋工業大学長 鵜飼 裕之
15:10-15:20 来賓挨拶：文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課
人材政策推進室長 伊藤 賢氏
15:20-15:50 特別講演：「ものづくり企業におけるダイバーシティの推進」
日本特殊陶業株式会社 代表取締役会長兼社長 尾堂 真一氏
15:50-16:05 表 彰 式：「女性が拓く工学の未来賞」
16:05-16:15 報 告：「名古屋工業大学の新たな取組」
名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター長 藤岡 伸子
16:15-16:45 講 演：「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの課題について
～名古屋工業大学への期待～」
国立研究開発法人 科学技術振興機構 プロジェクト主管 山村 康子氏
（代理講演：科学技術振興機構主任調査員 今西 一憲氏）
16:45-16:55 質疑応答・意見交換
16:55-17:00 閉会挨拶：名古屋工業大学 理事 内匠 逸



シンポジウムは、藤岡伸子ダイバーシティ推進センター長の進行のもと、鵜飼裕之学長の挨拶で開会し、来賓の文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長 伊藤賢氏より女性研究者の活躍促進に向けての支援方策の説明と本学の取組への激励をいただきました。続いて、特別講演として日本特殊陶業株式会社代表取締役会長兼社長の尾堂真一氏に「ものづくり企業におけるダイバーシティの推進」という演題でお話しいただきました。尾堂氏は、ダイバーシティ推進は「経営戦略であり、従業員全員が主役である」と熱意を込め、2013年6月に社内で発足した女性活躍推進のための取組「DIAMONDプロジェクト」について「風土を変える」、「意識を変える」、「環境を変える」という3つの方針を軸に、詳しい活動内容を紹介されました。

シンポジウム中盤には「女性が拓く工学の未来賞」の表彰式を行いました。この賞は若手女性研究者を表彰することによって女性研究者の研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、ダイバーシティの推進に資することを目的とするものです。

表彰式に続いて、藤岡伸子ダイバーシティ推進センター長が、本事業に採択された経緯とダイバーシティ推進センターの取組内容を説明しました。

次に、国立研究開発法人科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部主任調査員今西 一憲氏が「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの課題について～名古屋工業大学への期待～」という演題で講演し、本学に対する強い期待をお話しされました。

本シンポジウムには、学内外から150名が来場し、講演後には活発な意見交換が行われました。



来賓
文部科学省科学技術学術政策局
人材政策課
人材政策推進室長 伊藤 賢氏



日本特殊陶業株式会社
代表取締役会長兼社長 尾堂 真一氏
による特別講演



国立研究開発法人科学技術振興機構
主任調査員 今西 一憲氏による講演



フロアからの熱心な質疑に応える鵜飼学長



女性が拓く工学の未来賞
表彰式

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

2. 研究者支援

(1) 女性が拓く工学の未来賞

女性が拓く工学の未来賞は、優れた研究業績を挙げることが期待される本学の若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図るものです。

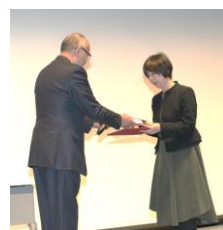
本年度は、「優秀賞」に武田はやみ氏（しくみ領域研究員）、「奨励賞」にPrajwalita Das氏（共同ナノメディシン科学専攻大学院博士後期課程3年）が選ばれ、平成29年11月22日、キックオフシンポジウムの中で表彰式が行われました。

◇優秀賞

しくみ領域 研究員 武田 はやみ氏

選考理由：

武田はやみ氏は本学大学院修了および会社勤務後に、12年にわたる主婦および育児専念の中断期間を経て、本学研究員として平成19年に研究第一線に復帰した。その後10年にわたる同氏の研究業績は、材料工学分野における学術上優れた成果として質・量ともに十分示されており、さらに博士号取得、科研費獲得を達成するなど、並々ならぬ積極的姿勢を貫いてきた。これらは、女性研究者の社会的プレゼンス向上を先導して例示してきた人物であると高く評価される。



研究職から一度離れた私が大学に戻り、このような賞をいただくことが出来たのは、本学の先生方、学生、友人、家族、多くの方に支えて頂いたおかげと深く感謝しております。ありがとうございました。

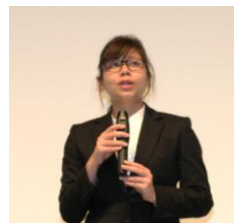
優秀賞受賞 武田 はやみ

◇奨励賞

共同ナノメディシン科学専攻
大学院博士後期課程 3年
Prajwalita Das氏

選考理由：

インド人留学生Prajwalita Das氏はフッ素化学を主軸とした創薬分野において、合成困難な試薬の新規開発に成功するなど挑戦的課題に熱心に取り組み、その成果を著名な国際ジャーナル誌に論文発表している。博士課程終了後は国内企業に就職し、研究経験を積んだ上、将来は母国におけるアカデミックポストに就く計画を定めており、キャリアパスの明快さに加えて、さらなる学術上優れた研究成果のみならず、本学との継続的な国際交流も期待される。



表彰式後のライトパーティにて

(2) 女性研究者メンター制度

キャリア形成、教育・研究、大学運営等におけるさまざまな疑問や悩みを女性研究者が相談できる体制を提供する目的で、平成28年度に「名古屋工業大学女性研究者メンター制度」を発足しました。

ダイバーシティ推進センターでは、メンターの配置を希望する女性の教員、特任教員、研究員等に要望調査を実施し、最適なメンターを検討し、メンターとマッチングするまでのコーディネートを行っています。

平成29年度は、メンター制度の先行例を学び、本学にふさわしいメンター制度のあり方を検討するために、メンター研修を実施しました。講師に朴木佳緒留先生（神戸大学名誉教授・京都教育大学監事）をお迎えし、大学におけるメンター制度の目的や特徴、並びに実践によって得られた成果や課題について詳しくお話しいただきました。本学でメンターを務める研究者に加えて、九州工業大学男女共同参画推進室長安河内恵子氏

も出席され、講演の前後には活発な意見交換が行われました。

朴木 佳緒留（ほうのきかおる）氏
（神戸大学名誉教授、京都教育大学監事）

平成19年から平成22年まで神戸大学で男女共同参画推進室長を務め、平成19年度に全国の大学に先駆けて神戸大学において女性研究者メンター制度を確立されました。



日 時：平成30年3月8日（木）
13:00-14:30
場 所：名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター
11号館3F i-cafe
対 象：本制度登録のメンター・メンティ
参加者：10名

(3) 研究支援員制度

本制度は、男女を問わず出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために十分な研究時間が確保できない教員等に研究支援員を配置することで生活と研究業務の両立を図れるように支援していくものです。平成29年度10月-3月期は12名（女性8名・男性4名）の教員・研究員が利用しました。

研究支援員の身分はパートタイマーとし、研究支援員として雇用できるのは本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内です。

○利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員。

- ・ 妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・ 育児休業等を取得している者
- ・ 中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を主として養育する者
- ・ 介護休業等を取得している者
- ・ 介護保険法で規定する要介護者または要支援者がいる者
- ・ 家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・ 女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

(4) ライフイベント支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

本学は、平成27年度に「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」を制定し、本学教職員及び学生の育児と仕事、研究の両立のために三種類の支援をしています。

①内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用

子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第59条の2第1項に基づき、公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用するものです。

平成29年度10月-3月期は2名の女性研究者が利用しました。

○割引の内容

サービス利用時に割引券を提示することで、一日（回）あたり2,200円の割引が受けられます。

※利用料金が2,200円以下の場合には利用できません。

○利用可能枚数

一日（回）につき家庭1枚まで（一か月24枚、一年280枚まで）

○利用対象者

本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります）

○利用対象となる子ども

乳幼児又は小学校3年生までの児童

その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

○利用の条件

利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合

利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合

公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者の利用に限る

②大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」

本学独自の契約により本学の教職員及び学生は、会員料金で大学近隣の保育施設「千種シッターサービス」を利用できます。また、本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は厚生年金の被保険者）への利用料の補助等も行っています。

平成29年度10月-3月期は2名の研究者、1名の大学院生が利用しました。

○利用対象者 本学の教職員及び学生

○割引の内容 会員料金でベビーシッターサービスを利用できます。

なお、本学に勤務する教職員（厚生年金の被保険者である非常勤職員を含む）は、申請により、一家庭につき一日（回）あたり700円の補助が受けられます。

○利用対象となる子ども

乳幼児又は小学校3年生までの児童及び健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

○利用可能サービス

シッタールーム利用

シッター派遣（※ベビーシッター育児支援事業割引券を利用することはできません）

③病児病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。平成29年度末時点で5名の教職員が登録しています。

○割引の内容

登録料の全額及び利用料金の半額を大学が負担します。

＜利用料金＞

7:00 - 9:00 2,500円/時間

9:00 -18:00 2,000円/時間

18:00-19:00 2,500円/時間

※前営業日の18:00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。

※ 最低利用時間は、2時間です。

○利用対象者

本学教職員

○利用対象となる子供

本学教職員が養育する小学校3年生までの児童

○サービスの内容

①病児保育：病気にかかっているが、感染性の強い病気でなく、当面の症状の急変が認められない場合
においての一時的な保育

②病後児保育：病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等において
の一時的な保育

2. 一時保育サービス

大学入試センター試験、一般入試第二次試験日には、教職員の休日出勤に対応するために一時保育を行っています。また、教職員対象に毎年実施する育児介護セミナーの際には、セミナーに出席する育児休業中の教職員のため、ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafe保育室で一時保育サービスを行っています。

平成29年度10月-3月期は4名の教職員が利用しました。

3. 保育室

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeには小規模の保育室があり、センター主催のセミナーの際に保育士による一時保育を実施しています。

本学で開催される学会やセミナーの際にもご活用いただけます。



保育室での一時保育サービス

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

4. 育児・介護セミナーの開催

ダイバーシティ推進センターと人事課との共催により、平成30年1月30日に「育児・介護セミナー」を開催しました。特別講演の講師として、福祉・教育・老後・消費者問題など幅広い評論活動で知られる樋口恵子氏をお招きしました。樋口氏は現在、「NPO法人高齢社会をよくする女性の会」理事長を務められています。

「ワーク・ライフ・ケアバランス」と題した講演では、これまで家族・家庭という名に包括され、無償の個人的行為として可視化されてこなかったケア労働を社会で重点化し、家族のケア労働に依存するのではなく、血縁がなくてもケアを支え合う社会「ワーク・ライフ・ケアバランス社会」の構築を望みたいと話されました。



特別講演の後は、人事課より、主に出産・育児支援制度や介護支援制度など、本学における仕事と家庭生活の両立の支援制度についての紹介をしました。育児休業中の職員も出席し、保育室から響く赤ちゃんの声をバックに、日本社会特有のケアの課題を改めて捉え直す臨場感あふれるセミナーになりました。

日 時：平成30年1月30日(火) 10:30-13:00
会 場：名古屋工業大学 11号館3階 交流サロンi-cafe
対 象：本学の教職員
参加者：20名



人事課労務係による育児・介護制度の説明

<プログラム>

- 10:30-11:30 特別講演「ワーク・ライフ・ケアバランス」～育児と介護はケア労働～
講師：NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長・東京家政大学名誉教授
樋口恵子氏
- 11:30-12:00 本学の育児・介護制度の説明 人事課労務係
- 12:00-13:00 ランチミーティング（樋口氏を囲んで）

(5) 女性研究者・技術者の会活動

女性のネットワークを作るだけではなく、研究・教育・学内事務・学会活動・社会活動・家庭生活とのバランスなど、日ごろ個人的に抱えている問題を共有し、本学の女性研究者・技術者を取り巻く環境整備に取り組んでいきたいと考え、平成28年度に「名古屋工業大学女性研究者・技術者の会」を設立しました。

数少ない女性研究者、技術者が互いに交流を深めて横のつながりを強固にし、いざというときに互いに手を携え、助け合える関係性の構築を目指すことが本会の主旨です。

平成29年度の活動

場 所：11号館3F 交流サロンi-cafe

開催時間：12時5分-12時55分

【第1回】平成29年 6月29日（木）：参加者19名

- ・ 鵜飼 裕之学長、内匠 逸理事からのご挨拶
- ・ 武藤 敦子准教授、沖原 理沙特任専門職員の研究紹介
- ・ 懇談

【第2回】平成29年12月21日（木）：参加者18名

- ・ 鵜飼 裕之学長、内匠 逸理事からのご挨拶
- ・ 武田 はやみ研究員の研究紹介、山本 かおり技術部副課長の業務紹介
- ・ 懇談

【第3回】平成30年 3月27日（火）：参加者 9名

- ・ 懇談



山本技術部副課長の業績紹介



会食の様子

交流サロン i-cafe

繋ぐ・集う・学ぶ・発信 ～開かれた多目的スペース～

工学系単科大学の本学において少数派である女性研究者は、各部局に分散して孤立した状況に陥りがちです。そこで、ダイバーシティ推進センターでは、女性研究者が気軽に立ち寄り、交流できるサロンを設けています。i-cafeでの交流によって女性研究者同士のネットワーク形成を促進するだけでなく、大学院生と女性研究者との交流をも深めることができ、研究キャリアにおける身近なロールモデルの獲得の場を提供しています。



使用目的	ワークショップ/サイエンスカフェ/セミナー/会議など
対 象	女性研究者・OB/OG・院生/学部生 ※サークル団体、プライベートスペースとしての利用は不可
規 模	ミーティング形式：机4、着席20名まで 講演形式：椅子のみ、着席30名まで

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

(6) 研究促進インセンティブの付与

女性研究者が、受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得の研究提案を行い、実現に至る例は全国的に未だ少数に留まっています。この現状を変えるために、意欲ある女性研究者を対象に研究促進インセンティブを与えて研究を支援する「女性研究者研究促進制度」を平成29年度に発足しました。

第1回目の募集においては、8名の応募者の中から、将来の研究の発展が期待される5名の女性研究者が採択され、研究費が支給されました。

平成29年度 女性研究者研究促進制度概要

1 対 象

将来の外部資金獲得、研究力の向上等に寄与する研究シーズを持っている、若手の准教授、助教、特任教員、研究員等とする

申請にあたっては、所属長、研究代表者等の事前承認を必ず得ることとする

2 研究環境整備の内容

1人当たり30-50万円程度を限度とする

(例示)

研究活動の基盤となる什器、パソコン、ソフトウェア、専門書籍等
学会参加費、旅費も可(平成29年度内、学会年会費は除く)

3 選考について

- ・ 別途の申請書による本人申請
- ・ 学長が指名する選考委員による選考結果をもとに、学長が決する

平成29年度 女性研究者研究促進制度採択者報告

自由化された電力市場ネットワークの需給マネジメントにおける全体最適化に関する研究

社会工学科 経営システム分野 助教 孫 晶

本制度利用により、数理モデル解析ソフトと数理計算用のPCセットを購入できました。研究環境の整備をしたことにより、助成期間中に、単期間の電力市場ネットワークについて、安全性、経済性と環境性を考慮した発電と送電の最適な組み合わせを求める数理モデルを提案することができました。実際のデータを用い数値実験によりモデルの適用性が検証でき、今後の大規模の最適化問題への求解の準備として、ペナルティ付きPSOのアルゴリズムの試行も行うことができました。



電子伝導性酸化物の探索

しくみ領域 研究員 武田 はやみ

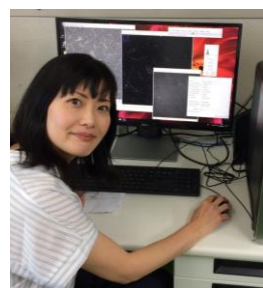
私は、新規電子伝導性セラミックスの合成に取り組み、その分析評価を行っています。学部・大学院でセラミックスについて学び、セラミックスに関する研究を続けてきましたが、電気特性に関する研究は行ったことがなかったため、基礎知識の不足を日々感じていました。今回、本制度を利用して専門書籍を数冊購入して熟読することによって、職務に必要な知識の習得ができました。さらに、本制度を利用して処理能力の高いパソコンを導入したことによって、結晶構造の可視化や解析計算が早くなり、作業効率が向上しました。また、新規電子伝導性セラミックスの研究分野として、蓄電池研究にも注目し、本制度を利用して電気化学会主催の講演会にも参加し、最新情報も収集しました。この学会で得られた貴重な知見を今後の研究に活かしていきたいと思っています。



光の有無でアクチン細胞骨格を制御し、その動作機構をタンパク質相互作用レベルで理解する

URAオフィス リサーチアドミニストレーター 藤原 郁子

本制度の支援により、画像解析用のコンピュータ（PC）を導入することができました。私の実験では光学顕微鏡を用いて撮影した画像を統計・定量解析することが非常に多いものの、今までは、観察動画データの容量が大き過ぎるとPCの容量が足りずに動画そのものが開けなくなるため、長時間撮影や高速撮影は諦めていました。今は、画像解析用PCを使えるので、データ量の大きい動画も解析可能となり、より難しい条件での顕微鏡画像を取得できるようになりました。この導入により、最適な実験条件を決めるまでに要する時間が短縮でき、実験効率が改善され、高品質なデータも扱えるようになりました。本制度によって、気持ちの上でも支援していただけたように感じています。今後も、微力ではございますが、本学のダイバーシティ推進活動のお手伝いできれば幸いです。



フルオロサリドマイドの研究

ながれ領域 特任研究員 徳永 恵津子

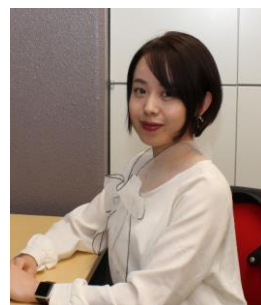
本制度の支援により、日本化学会年会と日本薬学会第138年會に参加、発表を行いました。国内最大規模、約8000人の研究者が参加する日本化学会年會のポスターセッションだけあり、多くの人たちが訪れ、ディスカッションを活発に行うことができました。また、日本薬学会では「フルオロサリドマイドにおける光学異性と多発性骨髄腫活性、血管新生および癌奇形性に関する考察」の発表を行いました。本発表は、日本薬学会から報道機関用広報資料「年會講演ハイライト」として採択されたため、多くの研究者の方々に本発表に興味を持っていただき、活発なディスカッションができ、大変有意義な学会発表となりました。本制度がなければこれらの学会の参加、発表は困難でした。採択していただきましたことに深謝いたします。



マイクロ波による量子ドットの合成及びその光学特性評価

先進セラミックス研究センター 特任助教 辛 韵子

本制度を利用させていただくことで研究整備品の購入が可能になり、研究に集中できる環境へと改善することができました。赴任直後は必要な物が非常に多い反面、競争的な研究資金は申請中であり、企業との共同研究費も未獲得で思うように動くことができない状況でした。そんな中、本制度の利用により、普段の実験データ解析や学術論文の作成の際に必要な不可欠なパソコンやソフトウェアを購入することができ、ストレスなく研究に集中する研究室環境の構築を実現することができました。更に、学術論文の投稿や学会での研究成果発表を通じて、将来の外部資金獲得のために必要となる業績の向上や更なるキャリアアップ形成に役立てる事が可能になりました。



Ⅲ 平成29年度事業実施報告

（7）NITech CAN 女性研究者データベースの構築

本学に所属する女性研究者と地域産業界との連携を促進し、新たな技術・事業の創出に寄与することを目的として、「NITech CAN女性研究者データベース」を構築しています。このデータベースは、本学の女性研究者がどのような研究活動を行っているのか、それらの活動の成果を活かして地域や産業界へどのような貢献ができるのかということをわかりやすく示し、アクセスした皆様により深く関心を持っていただくことを目指しています。

平成29年度には、データベースのデザインと入力項目を中心に構築しました。今後、より内容を充実させるように改良を進め、平成30年夏に公開を予定しています。



研究の概要

近年、コンピュータ技術の急速な発展に伴い、人工知能（AI）の活用が期待されています。AIは、人間の知能を模倣し、学習能力を有するシステムであり、様々な分野で応用されています。本研究では、AIを活用した工学分野の研究を進め、社会への貢献を目指しています。

産学データから人間に優しい科学の創出

産学データは、企業と大学が連携して収集したデータであり、様々な分野で応用されています。本研究では、産学データを活用し、人間に優しい科学の創出を目指しています。具体的には、AIを活用したデータ解析や、人間とAIの協働作業の研究を進めています。

人工知能による生物系のシミュレーション

人工知能（AI）は、生物系のシミュレーションに大きな貢献をしています。本研究では、AIを活用した生物系のシミュレーションを進め、生命現象の理解を目指しています。具体的には、AIを活用した細胞のシミュレーションや、生態系のシミュレーションの研究を進めています。

人工知能による人間関係のシミュレーション

人工知能（AI）は、人間関係のシミュレーションに大きな貢献をしています。本研究では、AIを活用した人間関係のシミュレーションを進め、人間社会の理解を目指しています。具体的には、AIを活用したコミュニケーションのシミュレーションや、人間とAIの協働作業の研究を進めています。

共同研究希望分野

プロフィール

3. 次世代育成

(1) NITech CAN「産業論」・工学女子キャリア形成塾の新設

多様性人材育成プログラムNITech CANでは、「ものづくり」におけるダイバーシティ視点の必要性を広く理解させるため、平成30年度より、全学部生を対象とする正課科目「産業論」にダイバーシティ推進に関する教育内容を盛り込むこととしました。講師には、地域産業界から招聘する多様な実務型教員(企業在籍の研究者・技術者等)を含め、学生からのフィードバックを講師を通じて地域産業界へと還元していくことをも企図しています。

また、学部から大学院までの女子学生を対象に、課程外の連続講座「工学女子キャリア形成塾」を平成30年度より新たに開設します。この講座は、講師に研究機関の研究者だけではなく、企業に在籍する研究者・技術者も含め、女子学生のアカデミック・キャリア形成を促すことを目指しています。

(2) NITech CAN「産業論」・工学女子キャリア形成塾 プレ講座の実施

①「女子学生のための企業見学会」

NITech CAN「産業論」・工学女子キャリアのプレ講座として、平成30年2月21日に「女子学生のための企業見学会」(株式会社デンソー)を開催しました。

学部2年生から博士前期課程1年までの学生11名が、刈谷市の株式会社デンソー本社を訪問しました。デバイス事業部で長年にわたり採用と人材育成に携わってこられた鈴木康利氏から、デンソー独自の研修制度である「道場」についての説明を受けた後、実際に社員教育で使用されている「道場:実機学びの場」を見学して各メーカーのエンジンの違いについて学びました。

その後、本学に社会人大学院生として在学するデバイス事業部人財戦略課の小林由佳氏から、社員同士のつながりを大事にしながら個を活かすデンソーのダイバーシティ推進活動について説明を受けました。見学会の終盤には、本学卒業生の島崎彩奈氏が、学生インターンシップから採用内定、入社までの流れについてご自身の経験をお話しされ、それをもとに就職活動についての質疑応答の時間が設けられました。参加学生は、緊張しながらも採用のプロである鈴木氏に活発に質問し、長期的な視点で自らのキャリア形成を考えることができました。



Ⅲ 平成29年度事業実施報告

(2) NITech CAN「産業論」・工学女子キャリア形成塾 プレ講座の実施

② 公開セミナー「生活と仕事：フィンランドと日本」

徳丸宜穂研究室とダイバーシティ推進センターの共催で、二人のフィンランド人講師による公開セミナーを開催しました。労働組織論を専門とする女性研究者と、日本企業のフィンランド法人に勤める技術者の方から、多様な働き方を受容し、高い女性労働力率を実現する北欧諸国の取組と、その背景にある文化的価値観について、日本との比較も含めて詳しくお話しいただきました。

日 時：平成30年3月14日（水）18:00-20:00

会 場：名古屋工業大学23号館（2312）

対 象：本学学生、教職員、一般

参加者：約60名

講演内容：

- 1 「ヨーロッパとフィンランドにおけるワーク・ライフ・バランス」
フィンランド 国立労働衛生研究所専門研究員・名古屋工業大学客員准教授 マリア・キャンサラ氏
- 2 「個人生活・職業生活におけるフィンランドと日本」
在フィンランド 日本企業勤務 アンティ・ヘイキネン氏



③ ワークライフバランスセミナー

技術部とダイバーシティ推進センターの共催により、平成30年3月19日にワークライフバランスセミナーを開催しました。特別講演として、大同大学長神保睦子氏に工学分野における女性活躍推進の課題を中心にお話しいただきました。大同大学において近年進められてきた女子学生受け入れの取組を紹介された後、電気学会男女共同参画推進委員会、男女共同参画学協会連絡会の委員を歴任されたご経験から、女子学生の理工系進学促進においては、教員や保護者の意識改革を促す必要があるとの問題提起をされました。

特別講演には100名以上の参加者があり、講演後には大同大学での女子学生のための取組への理解を周囲に広める方法や、工業大学における女子学生教育の心構えについて質疑が行われました。



日 時：平成30年3月19日（月）11:00-12:00

会 場：名古屋工業大学4号館1階ホール

対 象：本学教職員・全国の大学技術部職員・一般

特別講演：「女性と家事・育児と仕事」大同大学長 神保 睦子氏

参加者：約100名

④「伝わる英語のプレゼンテーションセミナー」



平成30年1月19日、サイマルインターナショナルから現役英語通訳者の講師を迎えて「伝わる英語のプレゼンテーションセミナー」を開催しました。女性研究者1名、学生3名の全参加者が、実際に2分間のプレゼンテーションを行い、意見を交わしながら向上を目指す実践的な内容になりました。プレゼンテーションの構成方法から、いつも同じ言い回しになってしまいがちな個所の代替表現や、発表時の目線の配り方まで、きめ細かな指導があり、4時間のセミナーを通じて全員がプレゼンテーションをブラッシュアップさせることができました。

日 時：平成30年1月19日（金）10:00-15:00（昼休憩12:00-13:00）の4時間
会 場：11号館3階 交流サロンi-cafe
対象者：女性研究者・女性研究員・女子大学院生（男性も可）
講 師：株式会社サイマル・インターナショナル 通訳科講師 中島明子氏
参 加：女性研究者1名・大学院生3名

⑤「英語論文・プレゼンテーションのためのオーダーメイドセミナー」

平成30年2月16日および3月16日には、受講者の希望に応じて、ネイティブスピーカーの科学者の先生から具体的なアドバイスを受けられる「英語論文・プレゼンテーションのためのオーダーメイドセミナー」を実施しました。女性研究者2名、女子大学院生1名が受講し、論文のアブストラクトについて表現を最適化するための指導を受けました。内容を討議しながら添削していく丁寧な講義スタイルが受講者に好評で、「自分では思いつかない表現を知ることができた」という声が寄せられました。



日 時：平成30年2月16日（金）、3月16日（金）13:00-14:30
会 場：11号館3階 交流サロンi-cafe
対象者：女性研究者・女性研究員・女子大学院生
講 師：Timothy Day氏, Ph.D.（発生物学・米国ジョージタウン大学にて取得）
参 加：女性研究者2名・大学院生1名

Ⅲ 平成29年度事業実施報告

(3) 女性同窓会「鶴桜会」



名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」は、大学の創立111周年を迎えた平成28年、全学同窓会である一般社団法人名古屋工業会の支援を受け、女性卒業生有志によって設立されました。

「一年に一度、鶴桜会で会いましょう！」を合い言葉に、毎年ホームカミングデーと同時開催の昼食交流会を開催しています。世代を超え、専門分野を超えて、「名工大で学んだ女性」という新しいつながりによる交流コミュニティとしての同窓会を目指しています。



平成29年10月28日に、本学のホームカミングデーと同時開催で、第2回鶴桜会交流会が開催され、OGや現役女子学生、関係者ら、計約50名が参加しました。

華やかな雰囲気の中で、ロゴマークのお披露目や起業家OGのミニ講演やOG全員の1分間スピーチが披露されるなど、参加者同士の親睦が進み、2時間にわたった会が盛況のうちに終了しました。

【ロゴマークについて】

平成29年度にロゴマークを公募し、応募件数58件のうち本学のデザイン系教員によって予備選考した優秀作品5点から、鶴桜会会員によるウェブ投票で決定しました。母校の建つ桜の名所・鶴舞の地、凜として羽ばたく鶴と桜にちなんだ図案で、名工大のOGがつながり、活動するイメージを表現しています。

(4) 女子学生団体 彩綾～SAYA～



女子学生の少ない本学で、学科・学年を超えた女子同士のつながりを持つことや、女子のキャリアをサポートすることを主な目的として活動する女子学生団体です。リケジョのキャリアを考えるようなイベントと並行して、SAYA内でのメンバー同士の交流を深められる楽しい企画も行っています。

【平成29年度メンバー】

41名：M2(1名) M1(1名)
B4(7名) B3(6名) B2(9名) B1(17名)
代表：村田亜美

【主な活動内容】

- ・ノリタケカンパニー×新入生歓迎イベント 陶器づくり
- ・1泊2日合宿 HONDA企業訪問
- ・女性技術者交流会
- ・アイシン精機×アドヴィックス バスツアー
- ・トヨタアイデアオリンピック
- ・名工大リケジョスイーツトーク
- ・安城市女子中高生イベント
- ・SAYAスポーツ大会



新入生歓迎会



女性技術者交流会

4. 意識啓発と情報発信

(1) あいち女性輝きカンパニー認証企業による女性活躍のための交流会

平成29年10月20日、日本BP社主催・名古屋工業大学・豊橋技術科学大学協力「あいち女性輝きカンパニー認証企業による女性活躍のための交流会」が日本経済新聞社名古屋支社栄カンファレンスルームにおいて開催されました。この交流会は、女性活躍を推進する先進的な取組をする県内の8企業が意見交換を行い、今後に役立つ情報を共有することを目的とするものです。

藤岡伸子ダイバーシティ推進センター長が出席し、本学における次世代育成の取組として女子学生団体「彩綾～SAYA～」を紹介しました。企業と連携したキャリア形成イベントの主催や中高生への理系進路を紹介する企画の運営など学生主体の活動を通して、個々の学生の目的意識や、責任感、リーダーシップが培われていると話しました。

なお、交流会の様子は、平成29年11月29日日本経済新聞名古屋支社版、日経WOMEN2018年1月号に掲載されました。



(2) 朝日女性活躍フォーラム2017

平成29年11月11日、朝日新聞社メディアビジネス局主催「朝日女性活躍フォーラム」に藤岡伸子ダイバーシティ推進センター長がパネリストとして登壇し、本学の女性活躍推進における特徴的な取組である「OG人財バンク」、「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」について紹介しました。また、女子学生のキャリアやライフプランの支援について、女子学生団体「彩綾～SAYA～」による「女性技術者交流会」の主催を例に挙げ、学生主体のキャリアパス開拓の在り方を説明をしました。



フォーラムの様子が、11月30日付朝日新聞23面に掲載されました。



(4) ダイバーシティ推進センター刊行物

ダイバーシティ推進センターの開設に伴い、平成30年3月にパンフレット「共に創る未来へ」をデザインを一新して発行しました。また、センターの取組の詳細を紹介するニュースレターを平成29年7月、12月、3月に発行しました。

ダイバーシティ推進センター パンフレット「共に創る未来へ」

実施体制

学長・役員会
ダイバーシティ推進委員会
センターの実現
学内協力体制
学外協力体制
産業界との連携
NITech Center for Diversity and Inclusion

女性比率の促進

女子学生比率の向上
女性研究者比率の向上

活動の様子

多様な人材育成プログラム NITech C&Iの主な取り組み

ニュースレター Vol.9-11

本学の女性研究者と、配偶者が大学等の研究者である男性研究者を中心に掲載した研究者ロールモデル集「ダイバーシティが工学の未来を拓く2018」を平成30年3月に発行しました。

研究者ロールモデル集「ダイバーシティが工学の未来を拓く2018」

平成29年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

**名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター
平成29年度 事業報告書**

発 行 : 国立大学法人 名古屋工業大学
連絡先 : 名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター
〒466-8585 名古屋市昭和区御器所町
編集委員 ダイバーシティ推進センター特任助教 加野 泉
人事課ダイバーシティ推進係主任 菅田 愛美
E-MAIL : diversity-crew@adm.nitech.ac.jp
URL : <https://www.nitech.ac.jp/diversity/index.html>

平成30年6月発行